

第34号

有機健康 つうしん

遠赤青汁通信 (H28.4.1発行)

映画「陽光桜」、さらに多くの皆様に平和への想いを届けます。

遠赤青汁株式会社

〒791-0398 愛媛県東温市則之内甲2225-1
TEL フリーダイヤル **0120-148-162**
ホームページ <http://www.enseki.com>

ようやく念願の地ミャンマーに「陽光桜」を植樹しました

一月二十一日、太平洋戦争で激戦地となった東南アジアのミャンマー(旧ビルマ)に初めて「陽光」が植樹されました。

当社長高岡の亡父正明は、戦時中青年学校の教師をしていました。

「戦争は必ず勝つ。この桜のもとに皆、帰ってこい。」と願って教え子たちを送り出しました。しかし戦争には敗れ、その多くは戻ってきませんでした。悔恨の想いで過ごしながら、「戻って来れなかった教え子たちの元へ鎮魂の為に桜を届けよう。」正明氏は考えます。普通の桜では東南アジアなどの熱い地域では咲かない。強い桜を作ろうと考え、「陽光」をその後約三〇年をかけて開発しました。

「陽光」は、正明氏が亡くなったあとも息子の照海が世界各国に桜の苗木を届ける活動を続けています。今回、戦後七十年の節目にあわせて、愛媛県からも多くの戦死者を出したミャンマーに初めて植樹することになりました。以前から高岡はミャン



ビルマ平和記念碑(左手前)には、「さきの大戦においてビルマ方面で戦没した人々をしのび平和への想いをこめるとともに日本ビルマ両国民の友好の象徴としてこの碑を建立する」と刻まれています。



日本人墓地の日のあたる場所に、陽光の苗木を植えました。高岡も丁寧に土を盛って、植え方を指導します。

マーでの植樹を切望していたのですが、政情が不安定で実現せず、二〇一一年に隣国タイに建立された、タイ・ビルマ方面戦病死者追悼の碑に、慰霊として陽光を植樹するのが精一杯でした。

今回、ミャンマーのヤンゴンにある日本人墓地に、愛媛県知事村時広氏をはじめ愛媛県から参加した商工団体関係者の皆様、ミャンマー在住の日本人など五十人余りが集まり、植樹式が行われました。植樹式では、全員で一分間の黙祷をささげたあと、陽光の苗木を、墓地の日の当たる場所に植えました。

日本人墓地を二十七年間管理しているヤンゴン日本人会池谷修さんは「慰霊の気持ちを込めて来てもらえてありがたい。大切に育てていきたい」と話してくださいました。

陽光は気候に合わせて、葉を落としたり適度に水やりをしたりすれば、早ければ来年にも花を咲かせてくれると思います。

ミャンマーには今年の秋にも、戦没者の遺族などで作る二つの団体に、より陽光の苗木を千本植樹します。今後、平和への想いを込めて、世界各地に届けていきたいと思っています。

映画「陽光桜」好評につき

黒内2館 30日まで上映延長

多くの観客が訪れ、好評を博しています。この映画は、愛媛県松山市で昨年十一月から上映を皮切りに、全国へ広がっています。

松山市の映画館は、ロケが行われた東温市からも、車で三十分ほどのところにあります。当時の正明氏(故人)を知る方々や、陽光に関わっていた方々など、多くの方々にお越しいただきました。

上映期間も、当初の予定から、再々延長を繰り返して、年末いっぱいまで延びました。(新聞記事のとおりです)さすがにこれほど延びたら、もう延長はないだろうと思っていたのですが、なんと年を越してから再び上映が決定しました。開館以来最大のヒット映画となり、日によっては立ち見も出る始末。臨時にパイプ椅子を貸してもらって見たというお客様までいらっしゃいました。

映画を見て感動した思いをそのままだに、当社を訪れる方もいらっしゃいます。

松山市の映画館は、ロケが行われた東温市からも、車で三十分ほどのところにあります。当時の正明氏(故人)を知る方々や、陽光に関わっていた方々など、多くの方々にお越しいただきました。

上映期間も、当初の予定から、再々延長を繰り返して、年末いっぱいまで延びました。(新聞記事のとおりです)さすがにこれほど延びたら、もう延長はないだろうと思っていたのですが、なんと年を越してから再び上映が決定しました。開館以来最大のヒット映画となり、日によっては立ち見も出る始末。臨時にパイプ椅子を貸してもらって見たというお客様までいらっしゃいました。

映画が好評で延長が続いていると、地元愛媛新聞に記事が掲載されました。2015年12月19日付6ページ『映画「陽光桜」好評につき』掲載許可番号: G20170101-02581



ミャンマーの植樹や、映画上映館のお知らせなど、facebook「陽光桜～世界に平和を願う桜～」でお知らせしています。
※上映時間は、映画館毎で違いますので、直接お問い合わせください。

農地再生に

挑む

「お疲れ様です。」圃場に行くと元気な挨拶が飛んできます。ファンさんとハさんです。

ハーブの草引きをしています。農場ではミントをはじめ、レモングラス、ローズマリーのトスカカーナブルーなどを栽培しています。冬場に入り、多くの品種が枯れたように色が変わっていきませんが、ミントやローズマリーは鮮やかな緑色を保っています。ハーブは冬場の方が香りが強くなるそうです。確かに、ハーブ畑の中を通って、少し触れただけなのに服にも香りがついてしまうほどでした。

ハーブも有機栽培で育てています。除草剤を撒いたりしないので、草が伸びてしまうと一面緑色に。「草とミントは見分けがついてる？」と聞くと、



草をかき分け、ミントを傷つけずに、根を切っています。鎌の使い方も慣れたものです。



よいしょっと。引いた草を集めるのも一苦労。あれ？ハさん、ミントが入っている気が（笑）

「農地再生に挑む」では、放置された農場を再生し、有機圃場として生まれ変わる様子をシリーズとしてお伝えしています。

「全然違うから、大丈夫です。でも、たくさんで大変です。」という返事が返ってきました。確かに草が土の上を這うように広がっているの、根を切りながらはぎ取っていかねければいけません。

草刈り用の鎌は刃が特殊で、のこぎりのようにギザギザになっています。草を直接刈るとより、土から根こそぎ切り離すという感じで使っています。草の根を切ることで、次に生えてくるのを予防します。

二人が研修生として入社したのが、平成二十六年の十月。あつと言う間に一年が過ぎました。先輩のチュンさんとズンさんが、昨年八月にベトナムに帰ってしまったので、今は二人で頑張っています。

ファンさんは送別会で花束を渡す時に、ぶつきらぼうに渡していたので、どうしたのかな？と思っていたら、「寂しい」と大泣き。仕事でも生活でも、いろいろと教えてくれた先輩がいなくなるので別れが辛かったんですね。

おじさんじゃないよ〜♪



もくもくと作業するファンさん。かわいい女の子ですが、ボーイッシュなので遠目から見ると男の人に間違えられそうです。

この一年で、にんにくの植え付けからはじまり、ケールの定植、にんにくの選別、草引き、石拾い、にんにくの収穫、ケールの収穫など農場の仕事も一通り作業を経験しました。もともと日本語は上手な二人なので、仕事について話を聞いても、ちゃんと説明してくれます。先輩の二人は日本語から学んでいたの、話ができるだけでもコミュニケーションはずいぶん違っていいのではないかと思います。

来週からミヤンマーからの研修生が二名入社し、いよいよ彼女たちにも後輩が出来ます。これからは先輩なので、ますます頑張っしてほしいですね。海外研修生が増えて、対応にドキドキするのは私たちも皆同じです。一緒に学びながら、頑張りますよ。



ベトナムから
うれしい便りが届きました

「結婚しました」

ベトナムからメールが入ったのが、昨年の十二月初旬。添付されている写真には、きれいなウェディングドレスに身をまとった女性が幸せそうなオーラとともに写っているではないですか。

「え？これチュンさんなの？」事務所でも大騒ぎです。

昨年八月に三年間の日本の研修を終え帰国した彼女。愛媛で知り合った同郷のベトナム人男性と、帰国後わずか四ヶ月でゴールインしました。彼も愛媛県内の企業で研修生として働いており、県内での海外研修生交流会などで知り合ったようです。まったく、隅におけないものですね。

農場のみんなも大喜び。一緒に帰ったズンさんが、結婚式にも出席してくれたみたいです。彼女はまだまだキヤリアウーマンとして頑張るみたいですが・・・（笑）お幸せに♪



ウェディングドレスは一段と美しく！素敵ですね。



着物を着た時も化粧映えてきれいでした。

松山ブランド新製品コンテスト

『NEXT ONE』

「陽光夢石けん」が優秀賞に！



このたび、当社の「陽光夢石けん」が、第十一回松山ブランド新製品コンテスト『NEXT ONE』において優秀賞を受賞いたしました。

松山商工会議所では、会員企業のモノづくり活動支援の一環として、松山地域の優れた資源や技術・人材を活かした魅力ある新製品を発掘し、「松山ブランド」として顕彰するとともに、製品の認知度向上や販路開拓を支援することを目的に、松山ブランド新製品コンテスト『NEXT ONE』を実施しています。厳しい企業間競争のなかで時代にマッチした新製品開発のため、日々しのぎを削り創意・工夫の努力を重ねている企業

が開発した製品を表彰しています。

「陽光夢石けん」は、愛媛で生まれた陽光桜の花と葉の成分を配合した石けんです。メレンゲの様な泡だちでクリーム並みの保湿力が特徴です。昨年、香港でこの度の販売会でも日本の桜をイメージしたパッケージが人気を呼びました。

このコンテストでは、第三回にも加工部門において「パリックとまるごと」で優秀賞をいただいています。今回が二度目の受賞で、工業部門と加工部門、両方で受賞した企業は弊社が初めてとなりました。担当者がアピールする点や申請書の書き方など、大いに勉強させていただいています。今後もチャレンジの場として参加していきたいです。



陽光夢石けんは、日本らしさを表現したパッケージが特徴です。日本は桜、桜は陽光ですね。

がんばる高校生！ 販売体験で頑張ります。



写真からもにじむような緊張感。スマイル♪練習したけど、やはり緊張しちゃいますね。がんばれ！

地元にある愛媛県立東温高等学校商業科の皆さんとは、ビジネスキャリア事業を通じて、以前から商品開発や販売実習などを行ってきました。

今回、弊社が定期的に催事販売を行っているいよてつ高島屋さんのご協力をいただき、販売体験を実施しました。実際の売り場では、販売だけでなく、お客様から寄せられる商品への質問にも答えなくてははいけません。本来ならば「青汁いかがでしょう」など、お声がけをするところですが、あまりの緊張感に笑顔さえ凍った感じに（笑）。

今回体験したこの緊張感が一番の勉強になったのではないのでしょうか。今後も、一緒にがんばりましょう。



四国八十八箇所 三十四番札所 本尾山 朱雀院 種間寺

(もとおざん すざくいん たねまじ)

高知県吾川郡春野町秋山72



6世紀末、大阪の四天王寺建立に携わった百済の仏師や工匠が母国への帰途、暴風雨に遭って、この地に近い秋山の港に避難しました。その際に船旅の安全を祈願して薬師如来の座像を刻んで祭ったのがこの寺の起源と伝えられます。後に弘法大師が堂宇を建立したときに、唐から持ち帰った五穀の種を境内にまいたことが寺名の由来となっています。

子育て観音

大師堂の手前にある観音様。別名「子育て観音」と呼ばれていて、その建物の壁には底を抜いた柄杓が所狭しとかけられています。この柄杓、安産祈願の為に掛けられたもので、底を抜くことにより「通りを良くする」願をかけたもので、祈願を申し込んだ妊婦さんに授けてくれるそうです。



社員研修旅行に行ってきました。

伊勢神宮「陽光桜」との出会い

昨年十二月に、社員研修旅行で三重へ行ってきました。

一日目の研修先は、「伊賀の里もくもく手作りファーム」でした。ここでは農業を活用した体験型観光施設としての取り組み、同農場や農園で栽培された野菜や飼育されている豚の加工販売を見学しました。

以前より当社は六次産業化に取り組んでまいりました。もくもく手作りファームはその先駆けとして、社長の高岡も大いに注目しており、今回ようやく訪れるチャンスに恵まれました。

創業から今までの取り組み、現在の姿、今後の事業展開などを説明いただきました。創業二十五年来、多種多様な補助金事業を獲得し、積み上げていった実績が大変参考になりました。

実は事前に、パンフレットも見て勉強してから伺いました。それでも



入場口。クリスマスを感じさせるイルミネーションと豚のかかし？がお出迎え。場内の案内図も手書きで、手作り感満載です。



もくもく手作りファームのスターは豚ちゃん。ミニブタが芸を披露して来場客にアピールします。



パン工房では、農場で収穫した小麦や豆を使ったパンが所狭しと並べられていました。焼き立てのいい香りが購買意欲をそそります。



野菜の直売所も、場内に設置されています。来場者に楽しんでもらい、新鮮な野菜をお土産として販売しています。



内宮の入口に立つ宇治橋鳥居。テレビではよく見ましたが、本物は初めて。これが木で作られているとは・・・すばらしい伝統ですね。

想像を超える広大な敷地と、色とりどりの楽しい展示品や、イベントの数々に圧倒されます。

入口から手作りのかかしがお迎え。場内の看板も専門の絵描きさんがいるそうで、手作り感満載で、雰囲気は暖かさを感じます。ところどころで、豚のオブジェがお出迎え。実際に、ミニブタがステージで芸をしたり、ひなたぼっこをして寝ていたりとのぼのぼの。ぜひ、お子様連れでと思わず宣伝したくなるほど、農業や酪農が楽しく演出されていました。

「うちもこんなに出来たら面白いなあ」

すでに高岡の構想は膨らんでいます。研修後すぐに、参考になったものを取り入れた新しい提案をレポートで提出することになりました。研修は続く・・・。



伊勢といえば「赤福」。本店も並ぶ、おかげ横丁。

二日目は、お伊勢参り。奇しくも次回のサミット候補地というところで、視察方々行ってみられました（笑）。私も初めて参拝しました。

外宮（げくう）からお参りしたのですが、驚いたのはその参拝客の多さです。早朝にも関わらず、駐車場は三十分待ち。これでも短い方です。内宮（ないくう）に着くころには、おかげ横丁にも人があふれていました。外宮を回らず、内宮だけという方も多いようです。すべてを回するには時間が

足りません。

内宮ではボランティアガイドの方に説明をいただきました。クリアールフォルダを片手に、ポイントを押さえてご紹介いただきます。途中、我々の歩くのが遅いので、「もう少し早くいかないと時間内に回り切れません。あそこも、ここも見てほしいところがあるのに」と注意されてしまい、かなりの早足に。滞在時間は二時間でしたが、ガイドさんいわく、本当に回るのなら二日くらいとのことでした。それでも、いろいろな質問にも答えていただき、素晴らしいと感じました。私たちの販売にもこうした資料作り、また顧客からの質問に的確に答える知識が必要だと接客を受けてみて、感じ取りました。やはりこれも研修です。最後にここで終わりということになって、ガイドさんが「この先が桜の名所だから、少し見ていきましょう」と言っていたので、神宮にはこんなに桜があるんです



ぐるりと案内をしていただき、皆一様に歩き疲れていたのですが、「陽光桜」を見た途端に社員たちがこぞって元気に説明したので、ガイドさんもビックリしていました。懐かしい友人に再会したような、そんな気分でした。

よと写真を見せてくれたところ、ありました！「陽光桜」です。そうなんです、陽光は当社社長も同行して、かつて正明氏が存命中にこの伊勢神宮に奉納されたのです。

「この陽光桜を作ったのが、うちの社長のお父さんなんです。ほら高岡正明氏が作ったと書かれています。」これにはベテランガイドさんもびっくり。

なんだか、初めて来たところなのに、陽光が植えられていると思うだけで、うれしくなりました。また、ぜひ桜の時期に、陽光が咲いているのを見に来たいと思います。ありがとうございました。